

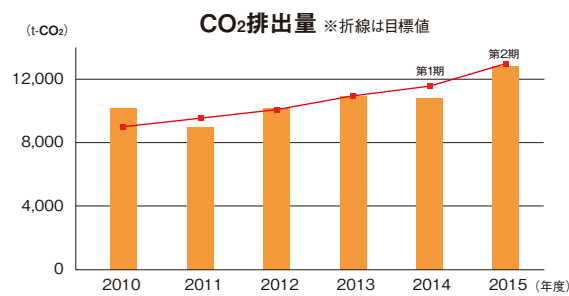
各国の削減目標
国連気候変動枠組条約に提出された約束草案より抜粋

国名	削減目標
中国	2030年までに GDPあたりCO ₂ 排出量を 60-65% 削減 (2005年比)
EU	2030年までに 40% 削減 (1990年比)
インド	2030年までに GDPあたりCO ₂ 排出量を 33-35% 削減 (2005年比)
日本	2030年までに 26% 削減 (※2005年比では25.4%削減) (2013年比)
ロシア	2030年までに 70-75% に抑制 (1990年比)
アメリカ	2025年までに 26-28% 削減 (2005年比)

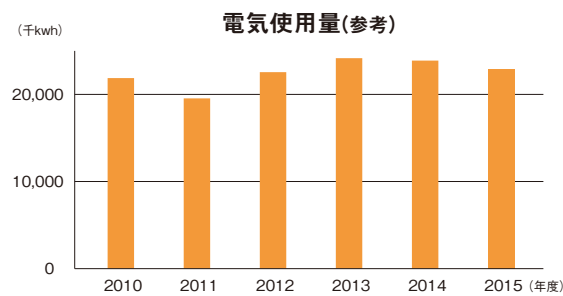
産業革命以降、地球の地上気温は、上昇の一途をたどっています(左図)。2015年11月30日に開催された「第21回気候変動枠組条約締結国会議(通称「COP21」)」により各国の削減目標が提示された「パリ協定」が採択されました(右図)。我国は2030年までに2013年対比26%のCO₂削減目標を掲げており、立教学院においても地球環境について考え、そして行動を起こします。

地球温暖化対策の第1期として2010~2014年度(東京都)、2011~2014年度(埼玉県)においてCO₂削減目標(基準年対比8%)に対し立教学院では8.2%の削減を達成しました。本学院では、自然換気の推進、空調の温度設定および照明の照度抑制、未使用諸室の消灯、高効率の空調機やLED照明への更新などの省エネルギー対策を進めています。

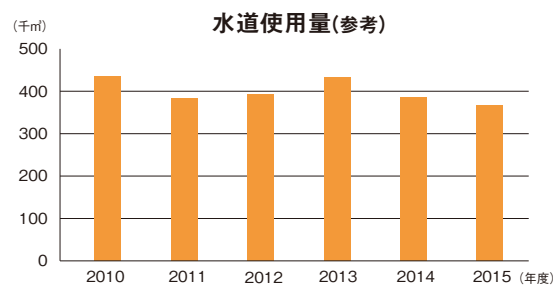
立教学院のエネルギーなどの消費量



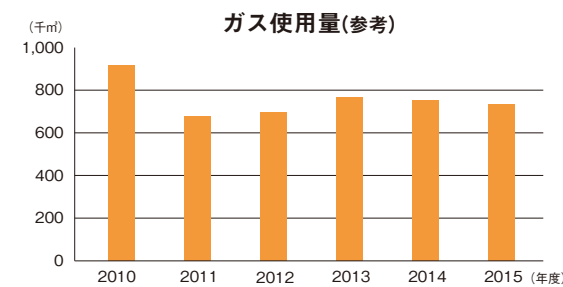
CO₂排出要素となる「電気・ガス」の使用量を削減する取り組みを継続しています。2011年度は震災の影響で一時的に減少し、その後は増加傾向です。2014年度からは設備の運用を見直し強化しました。2015年度はCO₂換算係数が見直され高くなりました。電気・ガスの使用量は減少しています。



学院構成員に対して節電啓発を促進するとともに集中管理による使用制限と巡回点検による使用量削減を進めています。

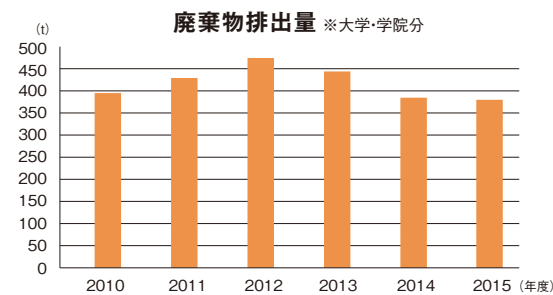


水の使用量が多いトイレは、年次的に節水機器への更新を進めており、手洗水栓の自動化も同時に進めています。

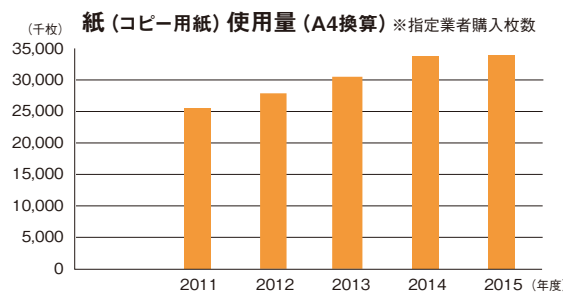


「教室空調」と「温水プール」でガスを消費していますが、2015年度は運用方法の見直しを図り、使用量削減を進めています。

廃棄物排出量・紙使用量



ゴミの分別回収とあわせ、ゴミの発生量抑制に対する啓発活動を継続的に推進しています。



紙の使用抑制に対する啓発は継続的に進めてきましたが、使用量は上昇を続けています。2015年度から主要会議で資料の電子媒体化を導入し、立教学院全体において、使用枚数減を進めています。



RIKKYO ECO CAMPUS REPORT

立教学院 エコキャンパスレポート vol.1

「立教学院エコキャンパスレポート」は、学院本部、大学、新座中学校・高等学校、池袋中学校・高等学校および小学校の環境保全活動の紹介です。主な内容は東京都の「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例(環境確保条例)」ならびに埼玉県の「地球温暖化対策推進条例」で定められたCO₂排出量の削減結果、直近の電気・水道・ガスの使用量についての報告です。また、廃棄物(ゴミ)の排出量、コピー用紙の使用量の推移も併せて掲載し、学院各校における省エネルギーに対する施設整備やその取り組みなどについても報告しています。

なお、CO₂排出量については、現在第2期(2015年~2019年)削減期間に入っており、第1期(東京都8%、埼玉県8%)から更に増えた、東京都17%、埼玉県15%の削減を求められています。今後は皆さまの環境保全活動への関心をより一層高めていただき、各種の省エネルギー活動へのご理解とご協力をお願いする次第です。

以上の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

立教学院 省エネルギー推進連絡会



学校法人
立教学院

立教大学 / 立教新座中学校・高等学校 / 立教池袋中学校・高等学校 / 立教小学校

エコキャンパスへの取り組み

立教学院では、環境に配慮した建物・設備の整備を長年にわたって継続しています。施設面と運用面で実践している省エネルギー対策の内容を報告します。

1 施設面

施設整備に際して、省エネルギー機器の導入や自然エネルギーの活用に配慮した計画としています。

(主な取り組み事例)

1 空調熱源の高効率化



立教大学池袋キャンパス ロイドホール(2012年)

2 太陽光パネルの設置



立教小学校 太陽光パネル(55.5KW)(2003年)

3 照明のLED化 教室、事務室、外灯などの照明を年次計画でLEDにしています。



立教大学池袋キャンパス 10号館(2015年)



立教大学新座キャンパス 体育館(2015年)

4 井水を利用した空調



立教新座中学校・高等学校 1Fホール(2014年)

5 建物による省エネルギー 室内への日射の影響を低減するため、庇や屋上庭園を活用しています。



ポール・ラッシュ・アスレチックセンター 西面の日射除けルーバー(2013年)



立教大学池袋キャンパス マキムホール 屋上庭園(2011年)

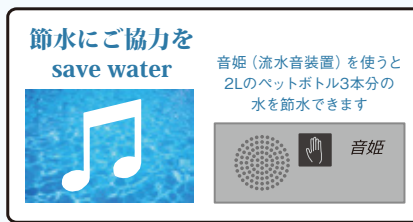
6 自然エネルギーの活用 自然換気を行っています。



立教大学新座キャンパス 8号館 教室窓下の自然換気口(2011年)

2 運用面

誰もいない教室の照明や空調機のスイッチをオフにしたり、無駄な水を使用しないなどの行動が最も大切です。省エネルギー化を一人ひとりが意識する社会を目指しています。



クールビズ・ウォームビズ

立教学院では、地球温暖化対策の取り組みとして、毎年5月1日～10月末日までクールビズ、11月1日～3月末日までウォームビズを実施しています。



空調温度設定の運用

立教大学では、夏季の空調温度を26℃、冬季は20℃を目標に運用を進めています。空調機によるエネルギー消費は、学院全体に対する割合が多いため、今後も引き続き運用を継続していきます。



TOPICS

清里環境ボランティアキャンプ (全学院)

立教学院の建学の精神であり、一貫連携教育の目標の一つである「共に生きる力を育てる」をテーマに、①自然から学び自然と共に生きる方法を学ぶこと、②環境問題に関心を寄せ、その環境を守るために力をあわせること、③年齢や学校が違う参加者が共に参加して理解を深めあうことを目指し、立教学院の児童・生徒・学生・教職員が立教ゆかりの地である清里の地に一堂に会し、2004年に開始以来、活動の柱としてきた環境整備に関わるボランティア活動を行っています。



ペットボトルキャップの回収 (立教池袋中学校・高等学校)

教室や職員室に回収箱を設置し、全校が一丸となって取り組んでいます。2015年度もとても多くの量のペットボトルキャップを回収することができ、今後は専門の機関に配送、さまざまなボランティアに役立てていただく予定です。



セントポールズフェスティバル(池袋)・IVY Festa(新座) ゴミ分別(立教大学)

毎年開催されているセントポールズフェスティバルでは、ゴミ分別コーナーを設け、再生可能なエコ容器を多くの模擬店で使用しています。IVY Festaでもゴミを分別して回収し、模擬店では環境に配慮したトレーを使用しています。



要町ボランティア(立教小学校)

立教小学校では2000年度から2年生の生活科の授業の中で通学路近隣地域への活動を行っています。子どもたちによる能動的な行動です。2006年度からは子どもたちが書いたポスターを貼る承諾を豊島区公園緑地課から得て、要町駅から立教通りまでの谷端川緑道の清掃、銅像洗い、環境ポスター貼りの活動を行っています。



ゴミ分別・リサイクルステーション(全学院)

ゴミ・廃棄物の発生を抑制する中で、発生するゴミ・廃棄物については、ゴミの分別回収を促進するとともに、リサイクルステーションで分別を行い再資源化を進めています。



省エネルギー推進連絡会(全学院)

立教学院では「立教大学」「立教新座中学校・高等学校」「立教池袋中学校・高等学校」「立教小学校」「立教学院事業部」が一体となり、省エネルギー化を中心とした環境保全活動を行っています。各校のエネルギー消費量やCO₂排出量などについて定期的に共有し、効率的な省エネルギー対策を検討し推進しています。



建物設備の更新計画(全学院)

立教学院全体で100棟を超える建物に対して、用途、建物毎のエネルギー消費および築年数等を評価し、優先度の高い建物から順次「空調機器の更新(LED化)」を進めています。

